



平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年8月7日

上場会社名 桂川電機株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6416 URL http://www.kip.hq.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)渡邊正禮
 問合せ先責任者 (役職名)取締役業務管理本部長 (氏名)太田譲二 (TEL)03(3758)0181
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月10日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	2,867	△4.7	4	△97.3	242	843.5	197	-
27年3月期第1四半期	3,011	3.5	170	133.1	28	△89.7	△84	-

(注) 包括利益 28年3月期第1四半期 312 百万円 (-%) 27年3月期第1四半期 △45 百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	12.89	-
27年3月期第1四半期	△5.51	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	13,956	10,458	74.9
27年3月期	14,269	10,221	71.6

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 10,458 百万円 27年3月期 10,221 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	-	0.00	-	5.00	5.00
28年3月期	-	-	-	-	-
28年3月期(予想)	-	0.00	-	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,500	△5.2	140	-	110	△56.1	10	-	0.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 社(社名)、除外 社(社名)
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期1Q	15,525,000株	27年3月期	15,525,000株
28年3月期1Q	203,280株	27年3月期	203,280株
28年3月期1Q	15,321,720株	27年3月期1Q	15,322,227株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	2
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	2
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	2
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
(1) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
(2) 継続企業の前提に関する重要事象等を改善・解消するための対応策	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成27年4月～平成27年6月）におけるわが国経済は、消費税増税後の低迷が一巡し、政府主導の経済・財政政策等により円安・株高傾向は続き、大手企業を中心とした雇用環境の改善等で緩やかな回復基調が続いているものの、海外経済の動向や輸入原材料価格の高騰がみられるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。世界経済は、米国では雇用情勢の改善等を背景に経済は堅調に推移しましたが、欧州では景況感の改善が見られながらもギリシャ債務問題で燻り、アジア経済全般は成長が鈍化するなか、中国での不動産市場の低迷や株式市場の大幅な下落で景気減速の懸念が高まるなど、先行きに不安定要素を抱えた状況で推移いたしました。

当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」）におきましては、販売面では北米市場を中心に、販売活動を行ってまいりました。また、開発及び生産面では原価低減に重点を置き、収益の向上に努めてまいりました。

この結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の連結売上高は、米国は堅調に推移しましたが、欧州及びアジアでの販売が伸び悩み28億67百万円と前年同四半期の30億11百万円に比べて1億43百万円の減収となりました。

営業利益は売上高の減収や売上原価率の悪化、販売費及び一般管理費の増加が影響して4百万円（前年同四半期は1億70百万円）、経常利益は為替差益2億36百万円を計上したため2億42百万円（前年同四半期は28百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損益は1億97百万円の利益（前年同四半期は84百万円の損失）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（画像情報機器事業）

画像情報機器事業の当第1四半期の連結売上高は、前年同四半期に比べて1億45百万円減収の28億29百万円（前年同四半期は29億75百万円）となり、営業利益は5百万円（前年同四半期は1億75百万円）となりました。

（その他事業）

その他の事業のモーションデバイス事業の当第1四半期の売上高は38百万円（前年同四半期は35百万円）で、営業損失は0百万円（前年同四半期は4百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

（資産の部）

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、139億56百万円となり、前連結会計年度末の142億69百万円に比して3億13百万円減少いたしました。

流動資産につきましては、101億20百万円となり、前連結会計年度末の103億50百万円に比して2億30百万円減少いたしました。

有形固定資産につきましては、17億33百万円となり、前連結会計年度末の18億28百万円に比して94百万円減少いたしました。

無形固定資産につきましては、4億41百万円となり、前連結会計年度末の4億71百万円に比して29百万円減少いたしました。

投資その他の資産につきましては、16億60百万円となり、前連結会計年度末の16億18百万円に比して41百万円増加いたしました。

（負債の部）

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、34億98百万円となり、前連結会計年度末の40億47百万円に比して5億49百万円減少いたしました。

流動負債につきましては、26億61百万円となり、前連結会計年度末の29億60百万円に比して2億98百万円減少いたしました。

固定負債につきましては、8億36百万円となり、前連結会計年度末の10億87百万円に比して2億50百万円減少いたしました。

（純資産の部）

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、104億58百万円となり、前連結会計年度末の102億21百万円に比して2億36百万円増加いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本資料の発表日現在において、当第1四半期で通期の連結業績予想値を大きく超えております。当社では入手可能な情報に基づき検討しました結果、為替の影響によるところが大きく、今後、期末日の時価により為替損益の額は変動することから、平成27年5月20日に公表いたしました業績予想値についての変更は行っておりません。

なお、実際の業績につきましても、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。また今後、業績予想を修正する必要があると判断した場合には、開示基準に従って速やかに開示をいたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

(1) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度に営業キャッシュ・フローでは4億85百万円のプラスを計上することができましたが、依然として営業損失32百万円及び親会社株主に帰属する当期純損失73百万円を計上しておりました。当第1四半期連結累計期間においては、営業利益4百万円及び親会社株主に帰属する四半期純利益1億97百万円を計上したものの、本格的な業績の回復を確認できるまでには至っていないこと等から、前連結会計年度に引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しているものと認識しております。

(2) 継続企業の前提に関する重要事象等を改善・解消するための対応策

当該事象又は状況を改善・解消するための対応策として下記項目について取り組んでおります。

①収益構造の改善 ②生産構造改革 ③技術開発の情報の共有化 ④組織体制の見直し及び人員削減等の合理化 ⑤新規事業の開拓 ⑥固定資産の有効活用 ⑦資金繰り

当社グループといたしましては、以上の施策を実施する事により、収益力の向上に努めてまいります。

なお、文中における将来に関する事項は、この四半期決算短信の開示時点において、当社グループが判断したものであります。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,143,493	4,156,056
受取手形及び売掛金	2,115,063	1,708,600
有価証券	501,556	501,606
商品及び製品	1,718,786	1,609,845
仕掛品	152,405	179,026
原材料及び貯蔵品	1,406,603	1,448,812
その他	607,996	640,611
貸倒引当金	△295,090	△123,764
流動資産合計	10,350,814	10,120,796
固定資産		
有形固定資産	1,828,367	1,733,388
無形固定資産	471,479	441,733
投資その他の資産		
投資有価証券	863,463	905,236
その他	781,673	911,131
投資損失引当金	△24,899	△24,899
貸倒引当金	△1,300	△130,892
投資その他の資産合計	1,618,937	1,660,575
固定資産合計	3,918,784	3,835,697
資産合計	14,269,599	13,956,493

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,927,338	1,567,238
1年内返済予定の長期借入金	12,166	12,339
1年内返済予定の関係会社長期借入金	72,000	72,000
未払法人税等	149,253	26,369
賞与引当金	60,086	94,691
その他	739,777	889,004
流動負債合計	2,960,621	2,661,642
固定負債		
長期借入金	398,380	393,959
関係会社長期借入金	72,000	36,000
退職給付に係る負債	69,251	69,553
役員退職慰労引当金	138,252	140,508
その他	409,334	196,691
固定負債合計	1,087,218	836,712
負債合計	4,047,839	3,498,355
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,651,750	4,651,750
資本剰余金	1,816,304	1,816,304
利益剰余金	4,593,725	4,714,661
自己株式	△113,601	△113,601
株主資本合計	10,948,178	11,069,114
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,332	54,053
為替換算調整勘定	△879,390	△802,558
退職給付に係る調整累計額	136,640	137,528
その他の包括利益累計額合計	△726,418	△610,976
純資産合計	10,221,760	10,458,138
負債純資産合計	14,269,599	13,956,493

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	3,011,038	2,867,859
売上原価	2,066,630	2,057,869
売上総利益	944,408	809,989
販売費及び一般管理費	773,516	805,407
営業利益	170,891	4,582
営業外収益		
受取利息	1,959	2,009
受取配当金	1,555	1,878
持分法による投資利益	7,905	-
不動産賃貸収入	10,367	10,249
為替差益	-	236,619
雑収入	1,055	1,016
営業外収益合計	22,842	251,773
営業外費用		
支払利息	7,515	8,469
持分法による投資損失	-	452
不動産賃貸費用	4,778	4,890
為替差損	152,055	-
雑損失	632	27
営業外費用合計	164,981	13,840
経常利益	28,752	242,515
特別利益		
固定資産売却益	232	-
特別利益合計	232	-
税金等調整前四半期純利益	28,985	242,515
法人税、住民税及び事業税	62,884	33,077
法人税等調整額	50,665	11,892
法人税等合計	113,549	44,970
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△84,564	197,545
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△84,564	197,545

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△84,564	197,545
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,807	37,721
為替換算調整勘定	20,826	76,831
退職給付に係る調整額	2,219	888
その他の包括利益合計	38,852	115,441
四半期包括利益	△45,711	312,986
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△45,711	312,986
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度に営業キャッシュ・フローでは4億85百万円のプラスを計上することができましたが、依然として営業損失32百万円及び親会社株主に帰属する当期純損失73百万円を計上しております。

当第1四半期連結累計期間においては、営業利益4百万円及び親会社株主に帰属する四半期純利益1億97百万円を計上したものの、本格的な業績の回復を確認できるまでには至っていないこと等から、前連結会計年度に引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しているものと認識しております。

当社グループでは、当該事象又は状況を早期に解消、改善すべく、グループの収益力向上及び財務体質強化を図り、安定した経営基盤を築くために、以下の対応策に取り組んでまいります。

(1) 収益構造の改善

① 国内外の販売会社を含めた営業体制及び営業活動の強化を図り、グローバル市場での売上規模の拡大及び新興国への拡販強化を実施してまいります。

② 管理業務の効率化を図り、固定費削減を含むコスト管理を引続き強化してまいります。

③ 徹底した在庫管理を目指し、在庫の削減を含めた管理及び購入調整を強化してまいります。

(2) 生産構造改革

① 製品等の部材調達につきましては、国内及び海外での部材調達の最適化を目指しコスト削減を図ってまいります。

② 製品の生産工程等を見直し、合理化を図り、製造原価の低減を実施してまいります。

(3) 技術開発の情報の共有化

当社は技術及び開発部門の統合により、機械系、光学系、電気系、ソフトウェア系など専門設計者との多様な設計情報を共有化し、厳しい競争において、いかに早く、品質の良い売れ筋の製品を出すかという課題の中、新製品の開発力の向上とタイムリーな市場投入をさらに強化するとともに、開発計画の厳守及び技術開発コスト削減の徹底を実施してまいります。また、モノ作りに関する人材・技術双方の育成と創造にも努めてまいります。

個々の製品に関する研究開発投資につきましては、メーカーの生命線であるとの認識のもと、その投資内容を厳選し、重点的な投資を実行してまいります。

(4) 組織体制の見直し及び人員削減等の合理化

① 事業規模に応じた経営の効率化を図るうえで、人員体制の機動的な対応に向け、必要に応じて組織体制及び人員配置のさらなる見直しを実施してまいります。

② 役員報酬及び管理職の賞与について、減額を引続き実施してまいります。

(5) 新規事業の開拓

当社は新たな収益源の確保を目的に、本業の拡大を図りながら新しい市場分野での事業について、いくつかの分野に分けて情報を収集し検討を行っております。

その中でも現行分野に近い特定業種向けの専用機器開発の可能性について要素技術の具体的な検討及び競争力、事業性等についての調査を進めております。また、他分野での事業検討を行なう上で、技術パートナーとの協調も視野に入れた検討を行なってまいります。

(6) 固定資産の有効活用

生産拠点での生産効率の向上やコスト削減を図るため、固定資産の有効活用に注力してまいります。設備投資につきましては、投資後も減価償却、保全、改良などが必要となり、初期投資だけではない維持・運用のための財務的な負担も考慮し、自社の設備保全に要するコストを削減し、かつ設備の余寿命を延ばし、結果として設備の稼働を向上させる方法を検討してまいります。

(7) 資金繰り

当社グループは、事業目標に応じた効率的なコスト削減に取り組み、事業及び運転資金の安定的な確保と維持に向け、グループ内の資金を最大限に有効活用してまいります。現状におきましては、厳しい事業環境を乗り越えるための資金繰りに支障はないと判断しております。

なお、取引金融機関に対しましては、引続きご協力を賜りますよう協議を進めてまいります。

以上の施策を実施するとともに、今後も引続き有効と考えられる施策については、積極的に実施してまいります。

現在、これらの対応策を進めており、当第1四半期連結累計期間の業績において改善効果を確認しております。

しかしながら、これらの対応策を実施してもなお、今後の売上高及び利益の回復は、受注動向や為替の影響等、経済環境に左右され確信できるものではなく、また、売上高の回復が資金計画にも重要な影響を与える等から、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当社グループの四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動のあった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。